

令和5年度業務実績に関する評価（案）の概要

1 決算状況（税込）		（単位：百万円）	
区 分	R4年度（実績）A	R5年度（実績）B	B－A
経常収益	50,980	51,455	475
医業収益	40,895	42,776	1,881
経常費用	50,471	52,985	2,514
医業費用	49,518	52,002	2,484
経常収支	509	▲1,530	▲2,039
経常収支比率	101.0%	97.1%	▲3.9
当期純損益	347	▲1,427	▲1,775

2 業務実績全体にかかる総合的な評定（要旨）	
医 療 面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立病院としての使命を引き続き担い、総合病院での外来化学療法加算件数や、ロボット支援手術件数の増加、こども病院でのリハビリテーション活動の充実など、医療の質の更なる向上とそのための体制づくりへの努力が引き続き認められる ・ また、県内医療機関への医師派遣など、県内の医療提供体制の確保に貢献している
経 営 面	<p>入院・外来患者数や手術件数等においては新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が見られるが、社会全体での物価高騰の影響により経費が増大し、経常収支においては法人設立後、初の赤字決算であることから、業務運営の改善・効率化を一層進める取組が期待される</p>
総 合 的 評 定	<p>新型コロナウイルス感染症や物価高騰等の影響を受けつつも、医療面・経営面の双方で、中期目標の達成に向けての努力と着実な進展がみられる</p>

3 機構の業務実績・自己評価			
(1) 機構自己評価（機構が行動計画として設定した全 119 項目）			
区 分	暫定評価	本評価	暫定評価からの変更項目
S：計画に対し十分に取り組み、 顕著な成果が得られている	6	9	< A→S > 【100・101】災害医療の拠点機能（総・心） 【103】他県等への医療救護活動の協力
A：計画に対し十分に取り組み、 成果が得られている	96	95	< B→A > 【60】病床稼働率（子） 【67】ラーニングセンター（子）
B：計画に対し、 十分に取り組んでいる	13	14	< 未→A > 【8】患者満足度【64】看護師確保対策 【108】業務改善運動推進制度実績件数
C：計画に対する取組は 十分でない	0	1	< A→B > 【30】高精度な放射線治療の提供（総） 【41】精神科救急（心）【96】公開講座
未評価（※暫定評価時データ集計中）	4	0	< 未→B > 【55】救急関係研修会（子） < B→C > 【114】経常収支比率
評価対象外	—	0	
計	119	119	

(2) 令和5年度数値目標の達成状況（機構が中期計画・令和5年度計画において指標設定）

区 分	暫定評価	本評価	
目標達成	13	13	
目標未達成	11	13	【9・10・11】紹介率・逆紹介率（3病院） 【25・40・50】入院患者数（3病院）・外来患者数（心・子） 【39・49】病床稼働率（総、心） 【30】放射線治療症例件数（総）、【41】時間外診療件数（心） 【61】看護師数（総）、【96】公開講座数（心・子） 【119】経常収支比率
未評価	2	0	
計	26	26	

4 県評価（全119項目のうち、県が数値目標項目など69項目を「重点項目」として設定）

区 分	暫定評価	本評価	暫定評価からの変更項目
☆：良好で特に着目する状況	6	9	<○→☆> 【100・101】 災害医療の拠点機能（総・心）
○：良好な状況	54	56	【103】他県等への医療救護活動の協力
△：より一層の取組を期待	6	4	<△→○> 【60】病床稼働率（子）
▼：取組改善を強く要望	0	0	【67】ラーニングセンター（子）
未評価	3	0	<未→○> 【8】患者満足度【64】看護師確保対策 【108】業務改善運動推進制度実績件数
計	69	69	

5 実施状況の調査・分析

(1) 項目別要旨

県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	医療の提供	総合病院での外来化学療法加算件数や、ロボット支援手術件数の増加、こども病院でのリハビリテーション活動の充実など、 医療の質の更なる向上が図られている
	医療従事者の確保及び質の向上	総合病院のメディカルスキルアップセンターにおいて現場に即した実践的な研修が提供されているほか、各病院における院内施設の充実や、総合病院での医師の働き方改革の推進など、 就労環境の向上に取り組んでいる
	医療に関する調査及び研究	総合病院のリサーチサポートセンターにおける研究など、意欲ある医師への研究や学术交流の機会の提供により、 本県医療水準の向上に寄与している
	医療に関する地域への支援	県内医療機関への医師派遣等により地域医療提供体制維持に貢献したほか、地域の医療従事者の養成や県立病院としての社会的役割に応じた取組が行われており、高度・専門医療の技術や知見が積極的に 地域に共有・還元されている
	災害等における医療救護	令和6年能登半島地震におけるDMAT・DPAT等の被災地域への派遣など、 災害対応の基幹的役割を果たしている

業務運営の改善及び効率化	薬品・診療材料の適正な調達・在庫管理や業務改善運動の推進等、業務運営の効率化に継続して取り組んでいる
財務内容の改善に関する事項	経常収支において、約 15.3 億円の赤字となり、地方独立行政法人化後、初めて経常収支比率 100%を下回った

(2) 項目別業務実績評価抜粋 ※下線部は暫定評価からの修正・追加事項

ア 県評価のうち☆の項目を抽出

No.	内 容	県評価	県評価
		機構評価	
5	チーム医療の推進	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院の院内感染対策チームによる、新型コロナウイルス患者の受入れ対応により県内医療提供体制の確保に貢献 ・精神科リエゾンチームや認知症ケアチームを中心とした取組により、R5. 4 総合病院に精神科身体合併症病棟を設置し、患者の負担軽減及び精神科救急医療の地域偏在の解消に寄与
		S	
18	リハビリテーション活動の充実（こども）	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・PICU(小児集中治療室) 患者への早期離床の介入等により、理学療法件数が増加 (件数 <u>R3 24,683 件→R4 25,770 件→R5 26,886 件</u>) ・増員された療法士が経験を積み、集中治療系病棟患者にも対応したことにより、作業療法件数も昨年度同程度を維持 (件数 <u>R3 7,794 件→R4 11,495 件→R5 11,333 件</u>) ・リハビリ全体（理学療法、作業療法、言語聴覚療法）の合計は過去最大の件数となり、体制強化により、患者の早期機能回復に寄与 (件数 <u>R3 42,522 件→R4 46,820 件→R5 48,551 件</u>)
		S	
31	外来化学療法の充実（総合）	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・外来化学療法加算件数は過去最大の件数 (<u>R3 12,812 件→R4 13,854 件→R5 13,862 件</u>) ・第3期中期目標期間を通じたハード・ソフト両面での取組（外来化学療法センターのリニューアル、前日採血の実施、副作用である脱毛を抑制する PAXMAN 導入）の効果が現れている ・がん患者に対する質の高い医療の提供だけでなく、治療と生活の両立など QOL の向上に大きく寄与
		S	

No.	内 容	県評価	県評価
		機構評価	
34	ロボット支援手術の活用（総合）	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット支援手術件数は<u>過去最大の件数</u>（R4 328 件→R5 407 件） ・R5 は、これまでのダ・ヴィンチ 2 台体制に、前年度に購入した手術支援ロボット「hinotori」を加えた 3 台体制となり、<u>高度な専門的医療の提供体制が拡充されている</u>
		S	
75	勤務環境の向上	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院における医師の働き方改革について、病院全体で積極的に取組を推進（チーム制・複数主治医制、タスクシフトの推進等）
		S	
77	研究支援体制の充実	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・きこえとことばのセンターにおいて、聴覚支援に先進的であるオーストラリアの機関と<u>連携し、難聴児の療育プログラムの確立に向けた検討会や検証を実施</u> ・きこえとことばのセンターにおいて、新生児聴覚スクリーニング検査を一元化した情報管理システムを開発し、県内医療機関での導入を開始 ・今後の更なる県民への成果還元を期待
		S	
100 101	<u>災害医療における拠点機能（総合・こころ）</u>	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年能登半島地震における、<u>県の要請に基づく DMAT・DPAT 等の被災地域への派遣</u> （DMAT：2 チーム及び他病院との混合 1 チーム DPAT：2 チーム DMAT ロジスティックチーム：1 名）
		S	
103	<u>他県等の医療救護活動への協力</u>	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>関係団体からの要請に基づく災害支援ナース等の被災地派遣や、県災害対策本部への派遣も行うなど、災害対応の基幹的役割を果たしている</u>
		S	

イ 県評価のうち△の項目を抽出

No.	内 容	県評価	県評価
		機構評価	
17	リハビリテーション活動の充実（こころ）	△	・リハビリテーション件数は減少傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染対策による受入人数等の制限を解除するなど、R5 から従来の活動を再開し、件数がやや回復 (H30 11,517 件→R 元 8,945 件→R2 8,080 件→R3 5,949 件→R4 5,885 件→R5 <u>6,564 件</u>) ・デイケア等の利用者増加に向け、 <u>今後も継続的な取組を期待</u>
		B	
39 49	病床稼働率 (総合・こころ)	△	・新型コロナウイルスの影響等により、各病院の病床稼働率は中期目標で示した目標値未達成 ・一方で、R5.5 新型コロナウイルスの「5 類感染症」への移行に伴う専用病床の確保数縮小により、稼働率は回復が見込まれる ・引き続き今後の取組に期待 総 合 目標値 90%→実績 <u>85.4%</u> (R4 82.6%) こころ 目標値 85%→実績 <u>84.0%</u> (R4 80.1%) (参考) こども 目標値 75%→実績 <u>75.9%</u> (R4 75.9%)
		B	
119	経常収支の状況	△	・R5 経常収支比率 <u>97.1%</u> ・入院・外来患者数や手術件数等においては新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が見られるが、社会全体での物価高騰の影響により経費が増大 ・少子高齢化の進行や患者の受療行動の変化など、地域における将来の医療需要を見据え、病院機構全体での課題を検討のうえ、収益確保及び費用の節減、業務運営の改善・効率化を一層進める取組を期待 (参考：第 3 期中期目標期間累計経常収支比率 <u>100.6%</u>)
		C	